

開催日時：平成 30 年 2 月 17 日（土） 9 時 00 分～11 時 00 分

開催場所：霞ヶ浦環境科学センター研修室

参加者：35 名



世界・日本の湖沼を知る

～イスラエル「死海」～

イスラエルの死海で浮かびながら読書する人の様子を画像で確認し、「水に塩を入れるとものが浮く」という実験を行いました。塩分濃度の上昇とともにゴルフボールが徐々に浮かんでくることを全員が体験しました。



～トルコ「トゥズ湖」～

トルコのトゥズ湖を紹介し、塩作りについて学びました。この際、上高津貝塚資料館の浅野様に塩作りの歴史や塩の必要性について説明をしていただきました。その後、ホットプレートを利用して海水、参加者が作った約 30% 食塩水、霞ヶ浦の水の 3 種類を蒸発させる実験を行った。塩分濃度が異なるため、出現する固体の食塩量が違い、参加者から驚きの声が聞こえてきました。



～塩の結晶を見てみよう～

結晶を顕微鏡で観察しました。食塩の飽和水溶液を使用してプレパラートを作成し、結晶化する様子を観察しました。結晶の写真を撮影して印刷しました。



塩の観察を通して、霞ヶ浦の歴史や文化に触れ、世界の湖についてみんなで学ぶことができました。

— ご参加ありがとうございました。 —